

CENTRAL PRESS

CONTENTS

- P2 経営フォーラム記念講演
- P3 経営フォーラム1・2分科会
- P4 経営フォーラム3・4分科会
- P5 経営フォーラム5・6分科会
- P6 青年部会、ほっと一息(中①)
- P7 支部理事会報告

2021.11.20

<https://www.hiroshima.doyu.jp/>

vol.173

Human First!

～一人じゃない。心を一つに、
知恵を寄せ合い、この難局を全員で乗り切ろう～

第35回広島県経営研究集会 経営フォーラム 2021

Next Transformation ～次なる進化をとげよ

10月6～7日、広島同友会の周年行事であり、最大の学びの場である経営フォーラムをZoomで行いました。今月はその特集です。なお、報告要旨は「同友ひろしま」の12月20日号に掲載されます。

この度の基調講演の報告者は中同協女性部副会長かつ東京同友会副代表理事をされている株式会社吉村の橋本久美子さんによるものでした。株式会社吉村は創業1932年。お茶の袋を作っている会社で、第8回「日本で一番大切にしたい会社」で「中小企業基盤整備機構理事長賞」に選ばれました。

1例会1アクション

元々専業主婦をしていた橋本さんが、会社を継いですぐに、同友会に入会されました。同友会では経営に悩んでいるのは自分だけではない事に気づいて安心されたそうです。そして例会の際には何か必ず実行に移す「1例会1アクション」を行なってこられました。経営指針書は10年前に作成されたとのこと。

経営理念がキャラクターにも

経営指針書の中の経営計画は200ページにまで至り、経営指針をしっかりと社員に浸透させ、「上司ではなく理念についていく」ことを意識することで管理職となる女性も安心して自走することができるようになったそうです。管理職となった彼女も、任された部署の理念を作って動くようになり、遂には吉村のマスコットキャラクター「みたらしちゃん」にまで経営理念が定められるまでになったそうです。



10年前

経営理念

想いを包み、未来を創造する
パートナーを目指します。

経営方針 (ISO品質環境方針)

1. 私たちは、パッケージを通してキラリと光る未来を創ります。(社会性)
2. 私たちは、商品への想いが伝わる舞台を造ります。(科学性)
3. 私たちは、挑戦して成長し失敗と喜びを分かち合う職場を作ります。(人間性)

非常に柔らかで、一見社長とは思えない雰囲気を持つ橋本さんですが、社員に仕事をしてもらう時にはどんな時でも「目的」と「目標」を定め、さまざまな厳しい取り決めを行ない、しっかりと力強い社長をされておられるようでした。基調講演はZoomでしたが、あっという間の80分。橋本さんは息継ぎをしているのかと思えるほどすごい勢いで一気に話し切られました。

文：(株) TomTak 毛利 武雄

■第1分科会報告

ヤミ金1億からのベストセラー ～人生逃げなきゃ何とかなる！～

報告者：(株) タイ・アンド・ギー 代表取締役 板坂 裕治郎 (いたさかゆうじろう) 氏



参加者の約145名が、板坂さんが駆け抜けてきた破天荒な半生をあたかも自分もその場にいたかのような臨場感で80分間、聞き入ったのではないのでしょうか？全編、広島弁のラ行巻き舌フルスロットルです。

登場地域が全部わかるので個人的に臨場感たっぷりでした。自殺を覚悟した鈴が峰から見た夜景、元気に挨拶しながら井口でゴミ拾い、ヤミ金やヤクザからの借り入れ・・・ドン底崖っぷちを繰り返します。そんな中、知人が6人もお金のために自死したことをきっかけに「お金で自殺する経営者を撲滅する！」と

いうご自身のミッションに目覚めたくだりは凄い迫力でした。経営理念がいかに大切か Mission、Vision、Passion の頭文字を MVP 理論として解りやすく伝えて下さり納得です！

ちなみに毎日ブログのきっかけは、流川で「板坂さんは、とうとう内臓を売ったらしい」という噂がひとり歩きしている事を知り、対うわさ話として2008年4月に始動したそうです。

「板坂さんって、歯に衣着せないけど愛がいっぱい！」と感じるのは、ミッションを果たすためにご自分の経験を、ご自分の言葉で語られているからこそなのでよね。

HPのブログ拝読させていただきましたが、めちゃくちゃ面白いのでオススメです♡

文：広島結婚相談所 まりまりっじ 佐々木 真理子

■第2分科会報告

かけがえのない地域になくってはならない会社へ！ ～「女性活躍推進」と「もっと近くて便利に！」～

報告者：(株) ジェイ・スマイル 代表取締役 松下 仁 (まつしたひとし) 氏

当時最年少でセブンイレブン2店舗のオーナーになられた松下さんの体験を通して、経営理念の大切さを学ぶことができた素晴らしい報告会でした。

何年も休みが取れない、社員の定着率が悪い、競合店ができて売上も減少傾向・・・そんな状況の中で、同友会の先輩の助言によって「経営理念」を作るようになり、社員と向き合うようになったとのこと。

今では経営指針書も社員とともに作成。店舗を任せられるようになり、地域貢献のための活動を始めたという一連の流れに、大きな感銘を受けました。

その他にも印象的だったのは、「新事業（セブンあんしんお届け便）を本部に相談したところ、その事業は山間部のためのものだ」と最初は反発されたが『経営指針書』を見せたことで本部からOKが出た。」というエピソードです。

私も職業柄、金融機関に対して顧問先の経営計画書を作成・報告のお手伝いをすることはありますが、



FC本部に対しても効果的というのは、経営指針書の必要性を物語っていると感じました。

文：(株) CFパートナーズ 峠本 正喜

■第3分科会報告

社員が夢を叶えることができる会社をめざして ～福山支部の「経営者大賞受賞者」が語る経営指針書の実践による変革！～

報告者：(有) シャルダン商会 代表取締役 藤田 哲也 (ふじたてつや) 氏

シャルダン商会の藤田さんは精密機器の専門輸送を行なっている会社の2代目。2013年に社長となり、同友会入会は2017年。

経営指針書は同友会入会后に作成され、作成1年目から経営指針書発表を行なっています。指針書発表の後にはグループ討論も行なわれているそうです。作成された経営指針書は手のひらサイズの手帖にし、全員に携帯してもらっているようでした。

この度の経営フォーラムでは、基調講演と第3分科会の報告者両者とも、経営指針書の成文化と情報開示で社員のやる気を引き出し、「人を生かす経営」を実現することで会社を着実に成長させられているのを感じました。

文：(株) TomTak 毛利 武雄



■第4分科会報告

「BIG勝つ！～「食」で、人の生活や心を豊かに～」

報告者：(株) スグル食品 専務取締役 大塩 和孝 (おしおかずたか) 氏

Wikipedia を使って「株式会社スグル食品 = ビッグカツ」を確固たるものに！

コロナ禍における人々の意識・価値観の変化に対応する新たな打ち手。

3年前に家業を承継する為に異にUターンされた大塩氏。氏はまず自社の「BIG勝つ！（事業の柱）」である「ビッグカツ」をフックに、SNSを使っているいろいろな情報発信（ブランディング）に挑戦された。そこで気付いたのが「社名」と「商品」が一致しない現実。現代において誰もが情報源として利用するWikipediaを使って「自社サイト（商品サイト）」と「自社商品」の紐付けを試みられたことは非常に興味深かった。同名の類似品がある中で同社の「ビッグカツ」をWikipediaでアピールするにはその根拠が必要だったそう。そこで氏はTwitterによる情報発信への注力や「ビッグカツアレンジレシピ本」の出版などで、同社の「ビッグカツ」における根拠を積み上げ

た。今では「ビッグカツ」でネット検索すると、Wikipedia、同社公式Twitter、Amazon商品サイト、同社サイト（商品サイト）が全て1ページ目に表示され、「株式会社スグル食品 = ビッグカツ」と一目でわかるようになっている。



「ビッグカツ」や「いか姿フライ」など老若男女にお馴染みのロングセラー商品をお持ちの同社。確固たる「柱」を武器に様々な取り組みや社内改革を進められている大塩氏の報告を受けて、改めて「柱」となる事業・商品の重要性を考えさせられた分科会だった。

文：(株) デイ・ディライト 田中 雅也

■第5分科会報告

今だから問う、経営指針書はなぜ必要なのか！！

報告者：(株) エムエイチ 代表取締役 宮岡 睦尚 (みやおかむつひさ) 氏



2021年10月6日(水)第5分科会にて、(株)エムエイチ 代表取締役 宮岡 睦尚氏による【今だから問う、経営指針書はなぜ必要なのか！！】をZoomの中、約1時間ご報告頂きました。

宮岡氏の開業までの紆余曲折、その後起こった困難、さらには人の育て方等、色々な観点から赤裸々に語って頂きました。

宮岡氏は開店当初は経営指針書の作成はしていませんでしたが、経営指針書を作成したら従業員の意識の変化も表れ、会社の向かう方向も見えてきたそうです。一番大切なのは「人間関係」・「企業は人なり」と言う思いを持ち「社員の手柄を立ててあげないと、人は成長しない」と言う思いで社員の育成にも励んでいるそうです。

報告終了後は、10グループに分け「会社を良くするために経営者の想いをどう伝えていますか？」をテーマにグループ討論も行われました。ここでは、その想いは社員にだけは無く、お客様にも伝えられるのではないかと前向きな議論も行われました。

文：(株) コージン 田中 裕二

■第6分科会報告

会社や社員の成長は経営者の姿勢次第 ～外部環境？いや、問題は経営者です～

報告者：映クラ (株) 代表取締役 山西 健三 (やまにしけんぞう) 氏

経営フォーラム青年部担当の第6分科会は報告者として、映クラ(株)山西さんに報告して頂きました。映クラ(株)は飲食店中心のフランチャイズ事業を展開し、これまでに140店舗出店100店舗撤退を行わない、現在、飲食店、自動車買取、ペーカリー、トレーディングカードの買取を行っている会社です。映クラが異業種展開する理由は1店舗の成功事例、失敗事例を全事業部で共有することで成長スピードを加速することにあります。そんな会社に入社した山西氏は、「結果を支えるのは意識」「結果とは利益である」と教え込まれます。新事業のペーカリー事業部の責任者を任された際は、「結果」を求めるも従業員との意識の違いにより従業員はやめていくばかり。そんな中、突然の代表交代を言い渡され代表取締役となります。突然の社長交代で何をしていたか分からない中、青年部に本格的に関わるようになり「良い会社って利益のみではないんじゃないのか？」と考えるようになります。

また役を受け、部会長をすることで経営者としての責務は、「お互いが成長していける社風づくり」と考えるようになります。そのためには主体的な組織でなければならず、それはトップの姿勢次第といえます。「責務」とは自覚を持って責任のある行動・務めを行うことであり、任された役目(責任)をこなすだけで終わって



いては果たすことができません。

自社の経営でも同友会活動でも、任された役目を自覚を持って行動していかなければ経営者としての責務を果たしていくことはできないと感じた報告でした。

文：(有) 渺 山根 鉄平

■青年部例会報告

2021年10月28日

「新たな美味しさに挑戦 ～逆境をチャンスに変える独自性づくり～」

報告者：(株) C & E コーポレーション 名越 真生 (なごしま) 氏

10月例会では、(株) C & E コーポレーションの名越真生氏に「新たな美味しさに挑戦～逆境をチャンスに変える独自性づくり～」のテーマで体験報告をいただきました。

当日は、お父様でもあり現社長であられる名越鉄治氏にも Zoom を通じてご参加いただき、社長を前に名越氏がどのような報告をされるのか緊張感ある雰囲気からスタートしました。

冒頭、名越氏は3年後に事業承継のうえ、社長になることを堂々と宣言。その後は、これまでの自身の歩みと取り組み、3年後の事業承継を見据えた具体的なアクションプランを、社長の前でしっかりと口調で報告されました。

体験報告後には、社長の名越鉄治氏より感想をいただき、3年後に社長に就任した際には、再び体験報告をするよう予約(?)までいただきました。

最後に、今回体験報告をいただいた名越氏の会社は、コロナ禍で大きな影響を受けている飲食業を営まれておられます。そのような状況下にあっても、名越氏が現状を受け止め、先を見据えた新たな一歩を踏み出そうとしているその姿勢と、お父様と一緒に見せていただいた前向きな笑顔に、私たちも経営に対する勇気をいただきました。

文：(有) シンワ技術 勘田 泰邦



ほっと一息

ええねえ・・・

楽器は難しいですね

(株) 三田電子 三田 善博 (みたよしひろ) 氏 (中①)

音楽と出会ったのは中学生の時。従兄にギターの運指を教えて貰ったのがきっかけ。高校時代に Jazz にのめり込み、現在は社会人バンドに所属させてもらっている。

音楽の楽しみ方は人それぞれ。私の楽しみ方は、人数はともかく、バンド形式のグループでの演奏を楽しむこと。

今所属しているバンドは Big Band で、Jazz、Latin を中心に、昔懐かしい曲から最近の曲まで幅広いジャンルの曲を練習している。楽器の構成は、トランペット：4本、トロンボーン：4本、サクソ：5本、ピアノ、ベース、ギター、ドラムが基本となっている。これが基本だが、バンドによって様々。バンドの歴史は古く、40年以上前に設立されたバンド。もう半世紀前になるかな？

譜面が配られて初見での演奏はなかなか面白いもので、演奏途中で笑いが起きたりしてズッコケる事もしばしば。それが何度も練習して譜面に慣れてくると音もまとまって来る。キッチリ演奏できた時の達成感

何とも言えない。

ステージは年に3回程度、小さなライブ会場ではお客さんが譜面台を隔ててすぐ目の前に。

ほぼ毎週日曜日の夕方から約3時間、文化センターの音楽室をお借りして練習をしている。

現在は、新型コロナウイルス禍で練習もままならない状況が続いていたが、やっと練習が出来る状況になってきてホッとしている今日この頃。

最近、どうしたら良い音が出せるかを模索中。コツを掴むのも大変だが、その音の出し方で演奏が出来るようになるまでには相当吹き込まないと無理だろう。

プロは凄いやと思い知らされる。因みに楽器はテナーサクソです。

文：(株) 三田電子 三田 善博

日時：10月27日 会場：ひとまちプラザ & Zoom

出席者：20名 / 23名

議長：高橋副支部長

■黙祷…亡くなられた中①・今井氏、元副代表理事・奥河内氏への黙とうを捧げた。

■入退会の承認

【入会希望者】(2名)

地区 会社名 役職 氏名

中⑨ (株)ファーストクラス 代表取締役 坂田 一男 氏

中⑨ 木下忠幸経営研究所 代表 木下 忠幸 氏

【退会希望者】(5名)

※以上承認されました。これにより、会員数は336名となりました。

■新しいカテゴリーの作成について

青木地域内連携推進委員長から「会員間交流を促進する一環として、会員名簿アプリで、『同友ベストプロ』を選択して業種を指定することで登録企業が検索できるようにしたい。中支部の委員会の並びに『同友ベストプロ』というカテゴリーを作りたい」との提起があり、これを承認。

■役員研修大学等の Zoom 画像活用の県同友会への提起について

村井支部長から「現在役員研修大学が進行中。報告を伺うと、いずれも会で学んで会社を発展させたという、素晴らしいもの。こうした話を、これに参加している方だけに限定するのは非常にもったいない。報告者ご本人の了解が前提だが、ぜひ録画画像・音声を公開していただき、地区例会や役員会で共有できればと思う。この提案を、中支部からの公式な意見として、県理事会に上程したい」との提案があり、了承された。

■特別報告「会員増強について」

- ・ 会員増強で思うような成果が出ていない。禪を締めなおして取り組む必要がある。まずは当たり前のことをきちんと積み上げることが大事。
- ・ 私は安佐南で別な勉強会に加盟しているが、かつては100人以上が参加していたのに、今ではせいぜい4～5名。大きな原因は、新たな会員を迎え入れる取り組みをしていなかったことだ。
- ・ 広島中支部を見ると、年度末に最も会員が多かったのが

2008年度の452名。そこから10年余りで100名以上の減少になっている。各地区会の企画書を見ても、オブザーバーが「0名」になっている。ウエルカムシートの新規記入・更新もなかなか進んでいない。まずは、地区例会に最低1名はオブザーバーに参加いただけるような雰囲気作りが大事だ。

- ・ もう一つは、オブザーバーや新会員へのフォローの問題。先日、社の専務が安佐支部に入会した。どこかの委員会に入らなければならないという事で経営労働委員会を希望すると、すかさず委員会の方々からの訪問を受けた。こうした気配りが、中支部には足りないのではないか。
- ・ この問題に必殺技はない。日々の取組みを積み上げるしかない。任期の残り5か月で、目標残の30名に取り組んでいこう。

■討議事項「広島中支部中期ビジョンのスローガンをつくる」

※以下のような意見が寄せられました。

- ・ もっと熱量が伝えられるものがあれば。
- ・ 3000名のキャッチコピーを活用しては？
- ・ サバイバルなど、もっと生き残りをイメージできる表現があっても良いのでは？
- ・ 足りないものを探そう。
- ・ 「地域との結びつき」が一番印象深かった。経営理念との関係。
- ・ 中支部だから「センター」というイメージ。
- ・ 「同友会に入ると買い物やマッチングができる」というイメージを。
- ・ 「黒字経営」「本音で語れる」が上がっているのが良い。
- ・ 「変わらなきゃいけない」そのためには本音で言えることが大事。受け止めるためには、しんどくても、謙虚に聞く。
- ・ 経営者集団なのだから、「経営者の器」を大きくする、数字にこだわる、学ぶ、成長する、このままではだめだ、と危機感をあおる言葉を。
- ・ 引っ張っていくイメージで。「全会員企業黒字経営」など。
- ・ 「生き残りをかけて」「進み続ける」「学び続ける」「3歩進んで2歩下がる」

文責：事務局 橋本

● 2021年10月末の各地区会データ

	中①	中②	中③④	中⑨
会員数	27人	99人	105人	106人
e.doyu ログイン数	15人	41人	46人	38人
例会参加数	7人	22人	25人	31人
例会オブザーバー数	0人	0人	0人	0人
入会者数	1人	4人	7人	8人



広島県中小企業家同友会 広島中支部発行

広島市中区中町8-18広島クリスタルプラザ8F

TEL.082-241-6006 FAX.082-241-6007

HP <https://www.hiroshima.doyu.jp/>

e.doyu <https://hiroshima.e-doyu.jp/>

発行責任者：村井 由香 広報委員長：毛利 武雄